

5G SA、AI活用、優先接続

英EE、5G SA商用化に合わせ、混雑エリアでの優先接続オプションを提供開始

BT傘下のEEは、5G SAを15都市で商用化した。5G SAの訴求メリット

- ゲームや映像ストリーミングの応答性向上
- スタジアムなど混雑エリアでの信頼性と接続性向上
- 屋内カバレッジとバッテリー寿命の向上
- 4Gの最大10倍の高速通信を実現
- 4Gエリアを超えて5Gエリアを拡張可能

AIの為に、AIで強化された5G SAネットワーク

- AI搭載端末増加の対応に最適なネットワーク。クラウドにシームレスに接続し、将来のAIアプリケーションがスムーズに動作することを保証
- AIを活用して自動化による信頼性向上を実現し、機械学習を利用してインフラの一部が使用されていない場合スリープモードにし、電力消費を削減
- CEOは、今後ネットワークが、AIツールやゲームなど顧客が利用しているサービスを認識して通信を最適化し、カスタマイズ体験を提供するサービス認識型ネットワークに進化すると説明

優先接続オプション「Network Boost」

- ネットワーク混雑時に、加入者により多くの容量を割り当て、パフォーマンスを向上させる機能を提供開始
- 料金
- モバイルプランのうち上位2プランに加入すると5G SAとNetwork Boostを利用可能

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

5G SA、ネットワークスライシング (to C)

独DT、世界初の消費者向けNWスライシングゲームオプションの提供計画を発表

DTは、遅延のないモバイルゲーム体験を実現するオプション「5G+ゲーミング」を今秋提供開始する。

利用技術	<ul style="list-style-type: none"> • 5G SA網を介して実装 • ネットワークスライシング、伝送速度を最適化して混雑するセルでも短い反応時間を実現する機能を利用
対応機種	<ul style="list-style-type: none"> • Samsung Galaxy S24 Ultra (今後追加予定)
価格	<ul style="list-style-type: none"> • 6か月間無料(同時に開始するクラウドゲームサービスと合わせて利用可能) • 特定の通信料金プランへの加入が必要

DTの幹部は「お客様はそれに対して支払いをしたいと思うのでしょうか？ 私にはわかりません」とFierce紙の取材に答え、[マネタイズを最大の課題](#)として挙げた。



ゲームの見本市では、同オプションを使用したゲーマーと未使用のゲーマーが対戦を行い、使用したゲーマーが「遅延もなくゲームは完璧に進行した」と語った。未使用のゲーマーは「5Gの追加機能がないと同じような反応速度が得られずタフなゲームだった」と語った。

5G SA、ネットワークスライシング (to B)

米T-Mobile、世界初の初期対応者向けネットワークスライス「T-Priority」を発表

T-Mobileは、警察官、消防士、救急隊員などの初期対応者に優先的なネットワークアクセスを提供するソリューションを発表した。T-Mobileは本ソリューションを今年下期に提供開始予定で、既にニューヨーク市が採用を決めている。

主な特徴

- 5Gネットワークでのデータおよび音声の優先アクセス
- 一般ユーザーの最大5倍のネットワークリソース
- 最低DL速度は、現行の基準の2倍に
- セキュリティソリューションT-Mobile SASEのセキュリティスライスを活用でき、セキュリティを強化可能
- 緊急対応チームが、24時間365日体制で待機し、災害、事件、大規模イベントなどにおいて、緊急車両の派遣や迅速に展開可能な技術を活用して、必要な場所で容量を増強し、サービスを復旧
- 対象：州、地方、連邦政府機関、緊急時に対応する公共事業や輸送機関などの企業
- Motorola Solutions、Ericssonなどのパートナーの技術ソリューションを備え、ニーズに合わせたサポートシステムを提供



無線リソース割当自動化による優先接続

Ericsson、シンガポールSingtelが自動無線リソース割当技術を世界で初めて商用実装と発表

Ericsson の ARRP(Automated Radio Resource Partitioning)は、従来のネットワークスライシングで必要であった顧客によるネットワーク需要の事前定義が不要で、企業や消費者アプリケーションの**様々なワークロードに適応し、ネットワークリソースをスマートに割り当てる**ソフトウェアソリューション。Ericssonは、ARRPがネットワークに対する要求が頻繁かつ急激に変化するミッションクリティカルなアプリケーションに特にメリットがあるとしている。

Singtelは、9月20～22日に開催されたF1イベントにおいて、5G SA、ネットワークスライシングを活用した**優先接続オプションの「5G Express Pass」提供の一環として、ARRPを実装**した。ARRPの利用により、同オプションの加入者は優先的にネットワークリソースを利用でき、混雑した環境でも、レースやフェスティバルのライブストリーミング、ソーシャルメディアでのコンテンツのリアルタイム共有、ライドシェアサービスの呼び出しを行うことができたという。SingtelのCEOは、「企業は希望する結果を指定するだけでよく、ネットワークのリソース確保や管理に関する知識がなくても、新機能を利用することができる。これにより、国土安全保障、ヘルスケア、スマート製造、消費者向けイベントなどにおいて、企業が新たなユースケースを模索する道が開ける」と述べている。

Network API

Ericsson、12の大手通信事業者とNetwork API合併会社を設立へGoogleとも提携

概要

- 2025年初頭に設立完了予定
- Ericssonが株式の50%を保有し、参加企業が合計で50%を保有
- [新会社は、参加企業からNetwork APIを購入し、統合して標準化し、販売する。参加企業は、発生したトラフィック量に基づいて収益を得る](#)

提携

- Network APIは、ハイパースケaler、CPaaS*プロバイダー、システムインテグレーター、独立系ソフトウェアベンダーに販売
- Ericsson傘下のCPaaS大手VonageとGoogle Cloudと提携
- これにより、何百万もの開発者やパートナーからなるエコシステムにアクセスが可能となる

参加通信事業者

- 南米 América Móvil, 米 AT&T, 印Bharti Airtel, 独Deutsche Telekom, 仏Orange, 印Reliance Jio, 星Singtel, 西Telefonica, 豪Telstra, 米T-Mobile, 米Verizon, 英Vodafone

提供機能

- 金融取引の不正防止検証や、ストリーミングプロバイダーがビデオ画質を動的に調整できるようにデバイスの状態をチェックする機能など

*Communications Platform as a Service

6Gの見通し

欧州電気通信標準化機構(ETSI) 事務総局長、6Gは革新ではなく5Gの進化との考え

ETSIの事務総局長は、業界紙の取材に対し、6Gの見通し、ETSIの取り組みについて説明した。

- 6Gは5Gの進化であり、革命ではないと考える
- 5Gを改善し、すでに5Gで議論されている機会を確実に実現すること、5Gについて振り返り、収益機会を正当化する必要がある
- ETSIは、[6Gのユースケースを特定しようとはせず、いかに技術の進化と性能向上させるかに注力](#)している。ユースケース検討から始めて、技術の具体的な仕様に逆戻りする検討方法は間違っている
- ユースケースの観点からは、6Gは5Gと同様に、消費者向けというよりも、特定の産業向けの方が関連性が高いかもしれない
- 技術面では、4Gや5Gで使用されている無線インターフェースに不可欠な直交周波数分割多重(OFDM)のようなシステムから根本的に離れることはない予想。同じような基本技術を継承しつつ、新しい先進的な変調方式や符号化方式、信号波形の設計、さらに先進的なMIMO構成で強化することになるだろう